



会 議 録

八幡市教育委員会

開催日時	平成27年8月28日(金曜日) 午前10時00分～午後12時09分		
場所	文化センター3階 講習室5		
出席委員名	大 隅 久美子 (委員長) 松 下 順 英 (職務代理者) 布 目 有希子	橋 本 陽 生 谷 口 正 弘 (教育長)	
委員を除く出席者の職・氏名	部 長 大 東 康 之 部 長 茨 木 章 部 次 長 北 和 人 部 次 長 南 本 晃 部 次 長 桂 智 美 部 次 長 林 幸 光 保育・幼稚園課長 佐 野 正 樹 保育・幼稚園課主幹 香 林 典 子 保育・幼稚園課主幹 桐 生 美千恵 図書館長 出 口 宏 子	学校教育課主幹 川 中 尚 学校教育課主幹 福 田 昌 弘 教育総務課課長 寺 村 敏 美 教育総務課主幹 加 藤 正 人 文化財保護課長 河 原 豊 教育支援センター所長 仲 辻 秀 樹 教育支援センター主幹 辻 元 弘 生涯学習センター館長 吉 田 順 一 教育総務課係長 林 左和子 教育総務課 大 崎 茂 夫	

1. 報 告 事 項

2. 議 題 (協議事項)

- (1) 平成28年度以降使用中学校教科用図書に係る採択について (学校教育課)

3. その他

- ・前月分議事録(写)の配付
- ・市立各幼稚園、小・中学校平成27年度運動会・体育大会出席者(案)について



	内 容
[委 員 長]	定刻となりましたので、8月の定例教育委員会を開催します。
[事 務 局]	はい、委員長。本日の定例教育委員会に7名の方から傍聴の申し出がございますので、報告いたします。
[委 員 長]	只今、事務局より報告のありました7名の傍聴の申し出に対しまして、委員会の傍聴の取り扱いは、八幡市教育委員会傍聴規則第1条で委員長の許可を得たものは、傍聴する事ができると規定されておりますが、委員の皆さんより何か、意見はありませんか。意見が無いようなので、委員長として可否を述べます。委員長として、報告と議題の時だけに傍聴を許可したいと思います。事務局より傍聴人に只今の事を伝え速やかに入場するように伝えてください。
	《傍聴人が入場し着席》
	それでは、定例教育委員会を次第に則って進めさせていただきます。
	最初に、報告事項は何かありますか。
	1. 報 告 事 項
[事 務 局]	特にございません。
[委 員 長]	それでは、議題に入らせていただきたいと思います。
	2. 議 題 (協 議 事 項)
	(1) 平成28年度以降使用中学校教科用図書に係る採択について
	委員の先生方には、7月初め頃から教科書をたくさんご自宅に届けていただきまして、検討していただいたと思いますので、ご意見等を積極的に言っていただきたらと思いま
	す。先日、7月24日に山城地域の地区協議会の協議をしていただきました。その事も事務局の方から報告をいただきながら、積極的なご意見をいただき、選定いただければと思
	います。私たち、この教育委員会が選定する事になっていきますので、是非忌憚のない意見をお聞かせください。
[教 育 長]	まず、地区協議会の説明からお願いします。
[委 員 長]	そうですね、地区協議会の説明からお願いします。
[事 務 局]	失礼します。まず、第2回山城教科用図書採択地区協議会は、出席委員20名が全員出席し成立しております。
	まず、会長より選定についての基本的な観点が提示されました。それは、先ず一点目は、山城地区の学力は府の平均を下回っております。特に下位層の生徒が取り組める工夫であるとか発展的な学習への手立て、また、生徒が主体的に学習に取り組むアクティ
	ブラーニングへの対応等があるか、といった学力向上の視点。
	二点目に経済格差や貧困への対応などの課題がある中で、どの生徒も家庭学習や自主学習が、し易いかどうかと言った生徒の興味・関心を高める視点。
	三点目に、管内教員の若年化に伴い授業の質を担保する上でも、若手教員でも授業で使い易いかどうかの視点。
	四点目に、教育を取り巻く多様な価値観が有る中、公教育として多種多様な意見がより反映されているかの視点。
	五点目に、法定展示及び各巡回展示において、昨年の小学校の教科書選定と比べましても、本当に多くの閲覧者からご意見を頂いております。寄せられましたご意見も参考にする事。
	以上五点を観点として教科用図書の選定の協議がなされました。選定の流れは、教科ごとに順次代表調査員から10分程度調査・研究の報告をして頂きました。
	調査報告は、府教育長通知である「平成28年度義務教育諸学校(中学校)の教科用図書採択基準及び基本観点について」及び「平成28年度使用中学校教科用図書選定資料」を踏まえ、調査研究が行われたものであります。報告の後、代表調査員に質問を行い、その後代表調査員には退席していただき採択委員のみで協議し、1種類を選んでい



	<p>ただくという流れで選定が行われました。以上、報告させていただきます。</p>
[委員長]	<p>はい、ありがとうございます。7月24日の選定委員会についての説明がありましたけれども、只今の説明につきまして、質問、ご意見は、ございませんか。</p>
[委員]	<p>全員一致で決定されたのかどうかお聞きします。</p>
[事務局]	<p>全て全員一致で採決されております。</p>
[委員長]	<p>はい、分かりました。これから順次、平成28年度以降使用中学校教科用図書採択を行いたいと思います。</p> <p>それでは、まず国語から行います。協議会の選定は、東京書籍でございます。協議会が東京書籍を選定した理由を事務局から説明をお願いします。</p>
[事務局]	<p>国語および書写について、代表調査員からの報告後の質疑応答の概要ですが、国語については、「若い教師が増えてきた中で、教えやすさや教材の良さ、難易度等のどの点を重視しようと考えているのか。」という質問に対し、「実際に若い先生が教えるということを考えて、光村図書については、難易度が高い部分も多い。東京書籍は、話す・聞く・書く等、若い先生が教えるにくいところも懇切丁寧に解説してある。」</p> <p>また、「話し合い活動等の言語活動を進めていく上で、使いやすいと思われた教科書は。」という質問に対し、「本当に中身を深めていくためには、作品の質と深くかかわるので、作品に観点を置けば、光村が掲載作品の質が高く深めやすいと思う。東京書籍は、学び合い、話し合いの手順についてもおさえているので、取り組みやすい。」</p> <p>次に、「古典や文学作品、日常生活に関するもの、あるいはドキュメンタリー等、幅広く掲載されている教科書はどれか、生徒が自主的に学習に取り組むことへの配慮がなされている教科書は。」という質問に対し、「光村図書は自然科学という部分が非常に多い。自然科学は読みが深めやすい。他の教科書についてはバランスよく、東京書籍については歴史とか社会とか科学、そういうものもバランス良く取り扱っている。」という内容です。</p> <p>質疑後の協議内容ですが、「国語は、説明や質問の答え等を聞いていると、東京書籍あるいは光村図書が考えられる。トータル的にそれぞれの項目について評価を聞いていると、東京書籍が妥当ではないか。」という意見や、東京書籍と光村図書が様々な意見の中で加点をするならば、高い評価でした。「山城地方の生徒たちの学力の状況等を考えてみると、導入部分や基礎・基本の徹底、充実を図る上では、光村図書は深めているという観点からは評価が高いと思われるが、基礎・基本を徹底し、導入部分に力を注いでいくという観点からみると、東京書籍の方が今の山城の状況には適しているのではないか。」という協議が行われ、国語については、東京書籍が選定されました。</p> <p>以上です。</p>
[委員長]	<p>はい、ありがとうございます。事務局の方から説明頂きましたが、委員の方々、これに関して何か意見はございませんか。私の感想は、話し合う・深め合う等活動が多く入っていたのは、光村図書だと思います。教材の基本的基礎的な事が教え易く、とっつき易い観点からいえば、東京書籍だと思います。光村図書については、非常に素敵な教材もあるし、少し光村図書も良いなと思いましたが、教える側から見ると少し難しいと感じました。私としては、基礎基本を向上させるには東京書籍が適当だと思います。</p> <p>委員の方々いかがでしょうか。</p>
[教育長]	<p>私も結構だと思います。</p>
[委員長]	<p>それでは、国語について東京書籍・「新編 新しい国語」を八幡市教育委員会として採択することに賛成の委員は挙手をお願いします。</p> <p>《委員全員挙手する。》</p> <p>全員一致で東京書籍「新編 新しい国語」を採択します。</p> <p>この様に、教科ごとに点検しますので事務局の方も協力のほどよろしくをお願いします。</p> <p>それでは、次に書写についてよろしくをお願いします。</p>



[事務局]

書写についての質疑応答に関しては、「見やすいという視点から、これは、というものは。」という質問に対して、「どれもそれぞれに工夫がされているが、教科書のサイズが大きいので、東京書籍が見やすい。教えやすいという中身では、光村図書と思われる。」
「実際に書く際に、生徒が見て分かる工夫は、どんなものがあるのか。」という質問に対して、「筆の運びとか流し方とか見て分かるのが、一番使いやすい。光村図書が筆圧や行書を体系的に理解しやすいようにしている。」という回答がされました。

質疑後の協議内容ですが、書写については、代表調査員からの報告を聞く中で、教えていく上で非常に工夫がされているということであれば、光村図書が書写については良いのではないかと。という意見があり、書写については、光村図書が選定されました。

以上です。

[委員長]

はい、有難うございます。委員の方々意見などは有りませんか。

三省堂も光村図書も東京書籍も楷書、行書、草書の書体については、非常に分かり易く、筆の運び方も非常に分かり易く出来ています。書写の専門家が指導するわけではないので、国語と同じように生徒に合ったもの、指導者に合ったものを選ぶのが良いと思います。

要するに光村図書は、学習者が興味を持って自主的に取り組めるのが多い、即ち身近な教材が多い。光村図書を見ていると、一枚めくって次はどうなっているのかという、子どもたちが次に向かっていく構成が見られました。三省堂の文字の編成は、高校の芸術につながる書道で、少々難しく無理だろうと思いました。

最終的に、東京書籍と光村図書を比較した場合、教員が教え易いのは光村図書だと思いました。

他にご意見は、有りませんか。

それでは、光村図書の1年・2年・3年を採択することに賛成いただける方、挙手をお願いします。

《委員全員挙手する。》

全員一致でよろしくお願いたします。

次に、社会にいきますが宜しいでしょうか。

[事務局]

社会科の地理的分野についての質疑ですが、「どの生徒も学習しようという具体的な手立てのところで配慮されているのは、どこの教科書か。」という質問に対して、「帝国書院が地理の学習を通して身につけてほしい基礎的・基本的な知識とか技能について、最も丁寧に説明をしているので、若い先生方も使いやすい教えやすい教科書になっている。」

「基礎・基本をしっかりと定着させる上で、データの読み取り力等の技能が大切だが、その辺を丁寧に扱っている出版社は。」という質問に対して、「各教科書で地理的な技能について説明をする、あるいは補足をするというコーナーを設けているが、帝国書院が25項目で最も多くなっている。」

「生徒の興味関心を高める上で、地元教材等、身近なものをどのように取り上げているか、各出版社の違いは。」という質問に対して、「古都京都・奈良ということで歴史的な背景、世界遺産や観光産業等については、各社共通で触れているが、帝国書院と日本文教出版は、更に他の項目でコラムを設け、京都の伝統産業の重要性について触れ、世界に知られた有名な先端産業の会社が多くあり、古いものと新しいものが共存して、発展している。」ということに触れている。

「歴史的な分野と公民的分野の関連で、一番多く関連のある内容を載せていたのがどこか。」という質問に対して、「関連する内容として、例えば領土に関する内容で言うと、やはり帝国書院が一番丁寧に中学生でも分かりやすいように、歴史的な背景や日本政府の立場、関係国との関係、世界への日本の働きかけ等を最も字数を割いて丁寧に分かりやすく解説している。他の歴史的な分野や、公民的な分野と関連する部分や、人権問題



や環境問題等についても一番多く触れているのは帝国書院で、他分野との関連も図りながら、学習をするという意図が明確になっている。」という質疑が有ります。

協議内容として、「生徒たちの学習、特に思考力・判断力・表現力を育てていく上で、東京書籍、帝国書院については身近な韓国を取り上げ、そして具体的な調査方法を学習していく筋道の手順を説明している。また、帝国書院についてはレポートや壁新聞の具体的な形式を例示しているが、他社はどちらか一方の提示となっている。帝国書院においては、統計資料のグラフ化の説明とか地図に写真の説明を具体的に明示する等、内容が大変きめ細かに書かれているのではないかと思う。その辺を考えたら、帝国書院の教科書が良いのでは。」という意見。また、「地理的分野だけを取り出してではなく、公民、歴史等も含めて、社会科としてトータルで考えていくときの連携から考えて、帝国書院の方が社会的背景も含めて非常に分かりやすく説明をしており、細かい配慮がなされていたか、歴史的分野や公民も含めて考えてみて、帝国書院が優れているのではないか。」という協議があり、社会科地理的分野については、帝国書院が選定されました。

[委員長]

はい、ありがとうございます。地図については、如何ですか。

[事務局]

地図帳の関係ですが、「地図帳の見やすさをどのように考えたらいいのか。」という質問に対して、「地図帳の鮮やかさで見ると、帝国書院は見た目はっきりし、東京書籍は薄い薄い色合いになっている。特に地形図の場合は、地形の凸凹をしっかりと読み取り、自然地形の中でどんな生活をしているか考えさせることが大切で、帝国書院は5色を使って地形の断面が具体的に読み取れるように工夫し、多段階に分けることによって、その差がはっきりと分かるようになっている。」また、「授業を進めていく上で拡大図等がある方がいいのかどうか。」また、「資料的なものが、多く載っている方の地図が良いのかどうか。」という質問に対して、「教科書自体が大きくなったことにより、教科書に載っている資料が豊富になったので、地図帳は、地図として見やすく、活用しやすいことを優先した方が、教科書とセットで使う場合によりお互いに補完しやすい。東京書籍は、多くの資料が多く載っているが、生徒が迷う感じがする。それに対して帝国書院は、はっきりと見せるということで、生徒たちが地図帳として見た時に、必要な情報を手に入れやすい地図になっている。」と回答がされました。

協議内容ですが、「地図帳については、代表調査員からの報告から考えて、地図帳としての精度も、帝国書院がより高いのではないかという認識を持った。帝国書院がより取扱いがしやすいのではないか。」という意見があり、地図帳については、帝国書院が選定されました。

[委員長]

はい、ありがとうございます。地理的分野と地図帳を説明していただきました。協議会の方は、帝国書院を選定していますが、何か意見は有りませんか。

[委員]

地理の教科書を見て思った事ですが、帝国書院は地図帳にリンクさせ説明されているので生徒たちは、学習しやすいと思います。資料・イラスト・図表が多く生徒には見やすい教科書だと思います。帝国書院が良いと思いました。帝国書院の地図帳は、日本列島全体の地図が見開き2ページで大きく掲載され、見やすいです。東京書籍の地図帳は色目が薄いですが、帝国書院の地図帳は、色目が鮮やかではっきりしている。以上の事から帝国書院が良いと思います。

[教育長]

地理的分野とは、もちろん知識として押さえないといけない部分が有るのですが、地図帳や統計資料を見たりし、そこから何を読み取るかという大切な部分が有ります。その時に、一番必要なのは、作図の仕方や読図の方法、資料の読み取りの方法や視点をきっちりと子どもたちに教えた上でないと、地図等を読みなさいとは言えません。そのような観点からいうと帝国書院は、技能を磨くというコーナーが25程あり、他に比べて良いと思う点と、八幡市という観点からみると、人権教育と環境というのを大切にしてきました。そういった面からみると、帝国書院は参考になるコラムを15項目程度掲載されています。これも、もちろん指導する教員がどのように指導するかで変わってく



と思うのですが、そういう題材を多く取り入れてることからいうと帝国書院だと思えますので、協議会の採択と同様にしたいと思います。

[委員長]

地理的分野と地図について、帝国書院社会科の中学生の地理（世界のすがたと日本の国土）と中学校社会科地図の採択に賛成の委員は挙手をお願いします。

《委員全員挙手する。》

全員一致で採択されました。よろしく願いいたします。

続けて、社会科歴史的分野をよろしく願います。協議会の選択は、東京書籍の「新しい社会歴史」です。

[事務局]

社会科・歴史的分野の質疑概要ですが、「歴史を通史として捉える力というのが重要であり、年表の果たす役割は大きいと思うが、それぞれの単元において、どのように年表が配慮されて、工夫されているのか。特に小学校との関連での配慮が高いのはどこか。」という質問に対して、「年表の扱いにおいては、各社細かく丁寧に作っている。巻末にある年表は、毎回毎回振り返るというわけではなく、章内における年表がどのように使われるかが、重要になってくる。そういう意味で調査したところ、6社が単元のはじめやまとめに提示してある。その中でも、小学校との関連に配慮されているのは、東京書籍の教科書である。東京書籍の年表は、章の最初と終わりに、小学校での既習内容を示した年表が、右側に書いてあり、左には今回中学校で習った年表が載っている。見開きで、中学校と小学校の年表を見て、小学校の振り返りもし、中学校の予習もしながら導入できるのは、年表の使い方が、生徒にとっても、教師側にとっても使いやすいと考える。」

次に、「1時間1時間の授業や、単元ごとの流れの指導が明快になっていることが必要と思うが、各出版社の特徴は。」という質問に対して、「授業の中で見通しを持てるのは、8社中7社が、見開きの1時間において、最初に導入資料と問いかけを用意されている。そこで、興味関心を高めておいて、めあてが与えられ、それに基づいて授業を進めていき、最後に振り返り、まとめるという流れで構造化されている。授業の流れに見通しを持たせる配慮として、どの出版社もそのような形式は使われている。その中でも、特に東京書籍に関しては、時代を見通すための年表が、最初においてあり、時代の転換点を捉えるという工夫が、一番なされている。もう一つは最後の確認・まとめの部分の問いかけが、東京書籍は発達段階を考慮した質問がされていて、具体的なものから概念的な質問に変わっていくという点は、そういう面も配慮されている。」

次に、「生徒の興味関心を高めてくれるという意味で、地元京都の題材を取り上げていることは重要であると思うが、それについて各出版社の違いはどうか。」という質問に対して、「京都府に関する題材は、東京書籍が21点 日文が18点 帝国が17点という形で、最も多かったのは東京書籍である。」

次に、「主体的な学習、アクティブラーニング等、協働的に学び合うというのは大切になってくると思われる。そのような学習の中で、例えば用語の解説、あるいは索引をもとに生徒が主体的や協働的な学びに取り組んでいくことになると思う。また、用語解説とか索引は、家庭学習の視点からも大切であるが、その辺りで、優れている教科書はこのものか。」という質問に対して、「家庭学習時間が十分とは言えない生徒が多く見られるという山城管内の状況からすると、やはり家庭学習がしっかりとでき、学校でもアクティブラーニングを含めて自主的な取組ができるために、用語の索引項目が最も多かったのが、東京書籍である。たとえば、人名として346、事項索引として1057の合計1403の索引項目の中に挙げている。日文は、999、帝国は1057という項目数であり、実際に調べていく中で、たとえば、言葉の意味を調べる用語解説は、東京書籍だけで110を取り上げている。家庭学習時に、この言葉の意味がわからない時に、さっと調べることができるので便利である。他の出版社は、注記という形で取り上げているが、たとえば側注として、日文は45、帝国は53取り上げている。用語だけを取り上げて110あげているのは、東京書籍だけである。もう一つは、東京書籍はDマー



ク、デジタルコンテンツマークという意味ではありますが、そのマークがついており、東京書籍のサイトにアクセスすると無料で、学校からも家庭からも資料に関連する続くものを調べることができ、自主学習にも配慮がされている。」と回答がされました。

協議内容は、「この歴史的分野は8つの出版社で一番多いが、調査研究員の方は、丹念にそれぞれの出版社の特徴を公平に調査研究していただいたことを受けた上で、山城地方の生徒の教育効果の上がるものをとということになると、『これだけの内容のものを生徒たちに分かりやすく提供できる教材であるか』しかも『教師にとって、生徒の実態を踏まえた教えやすいものであるか』という観点が非常に大事である。その中で、質問に対する回答を聞いていて、非常に1社に絞るのは悩ましいところではあるが、内容を整理できているという観点から、東京書籍がよいのではと考える。特に小中学校の接続、それから生徒たちの主体的な学習を進める上でも、用語解説の点、地元教材の取り扱い等、総合的に考えると、東京書籍でどうか。バランスという点で、東京書籍が良いのではないか。」選定についての基本的な5つの視点と調査研究員から報告のあった観点、特に本文資料とともに詳細であるという報告や、発達段階に合わせた編集が非常に高い評価を得ているということ等を踏まえて、東京書籍が山城管内ではよいのではという協議がなされ、社会科歴史的分野については、東京書籍が選定されました。

[委員長] 細部に亘っての説明を有難うございました。何か意見・質問は有りますか。

[委員] 非常に多岐に亘って色んな視点から検討されています。先ほどからの教科選択を含めて非常に興味深く聞かせていただきました。小学校の関連、1時間授業の明確さ、地元との関連等、八幡市の子どもたちの実態を踏まえた見解や、家庭学習も含めた説明があったと思います。ただ歴史分野については、一般的な市民感覚ですが、教科書展示のご意見等々、非常に多数寄せられているというふうに聞いております。こういう部分の議論について教えていただきたいと思います。

[教育長] 今回の教科書採択に対する意見は多かったです。歴史的分野と公民的分野についての意見が非常に多かったです。それぞれの出版社の方々の歴史の見方・公民についての見解です。教科書は、検定を通っていますので公平性については、同じようになっているという前提でスタートしていますが、バランス面について代表委員からそういった意見が出たと思いますが、全体的な流れと資料がバランスだと思います。それも踏まえながら採択したと思います。

[委員] 私も聞いていましたが、一番悩ましい教科だなと個人的に思っていました。やはり中学生に歴史を教える原点に戻った時に、客観的に書かれている教科書だなと思いましたので、総合的に見てみると東京書籍で賛成です。

[委員長] はい、ありがとうございます。イデオロギー等の問題とか色々もありますけれど、学校教育の中でバランスをとった指導という観点から選ばれたと思います。協議会でも色々意見が上がったと報告されましたが、協議会の方でも新しい社会歴史という事で東京書籍が選定されました。

[委員] 私が質問したことについて、「バランス」という言葉がありました。生徒たちに様々な視点が提示されていて、それを学習の場で色んな意見を戦わすことが求められています。多様な視点で「バランス」ということがどの様に考えられていたのか、十分議論されているというご回答でしたので了解しました。

[教育長] 私も先ほどの意見で東京書籍を採択しましたので、それはそれで結構なのですが、人権教育の観点や男女共同社会の観点と言った部分から教科書を見させていただいたら、帝国書院は29ヶ所程度記載があります。東京書籍は30ヶ所位あります。そのような観点から観ても東京書籍が良いと思います。

[委員長] 歴史的分野について、東京書籍を採択したいと思いますが挙手をお願いします。
《委員全員挙手する。》

全員一致で採択されました。よろしく願いいたします。



[事務局]

続きまして、公民的分野についてよろしくお願いします。

東京書籍「新編・新しい社会公民」です。

公民的分野の質疑ですが、「授業をしていて使いやすい。今、若い教員が増えている状況の中でそういう先生たちが授業をしやすい教科書というのはどれか。」という質問に対して、「授業を行う上で使いやすい教科書は、7社とも見開き2ページで1時間の扱いをしているが、1時間の学習の目安が分かる工夫に関しては、東京書籍である。特に導入教材、資料などを活用し、考察することを通して学習課題を解決し、振り返りができる構成となっている。また、写真・イラスト・図版の配置についても、同じように構成されているので、東京書籍が一番授業をする上では使いやすい。帝国書院も、学習課題の解決に向けて自ら探求し、振り返りができる構成になっており、特に学習内容が確実に定着するような工夫がなされている。」

次に、「生徒の自主的な学習という意味で、家庭学習を含めて、取り扱いやすいものが特徴的にあるのはどれか。」という質問に対して、「生徒の自主的な学習を支える工夫に関しては、まず、東京書籍が写真・統計・グラフこれらが647点掲載されている。加えて参照ページあるいは図番号が記されているので、本文を読みながら、その事実の根拠となる図やグラフが非常に分かりやすく作られており、予習復習等の家庭学習に一番適している。」

次に、「政治・経済等で日常の社会生活と関連付けながら、生徒に考えさせるのは大事なことであるが、その辺りでの工夫が見られる特徴的なものは。」という質問に対して、「東京書籍、帝国書院の2社には、現代社会、経済の分野に関するコラム、あるいは解説が最新の資料として扱われるところが数多くあるので、教科書の本文、図やグラフに加えて、このような現代社会や経済における課題や工夫・改善されている事実等の内容でコラムが掲載されているので、東京書籍もしくは帝国書院がふさわしい。」

「地域教材資料の取り扱いで特徴的なものはどれか。」という質問に対して、「地域教材という点で、京都府に関する題材は、東京書籍は5点、自由社が2点掲載されている。他社に関しては、京都府に関する題材は確認できていない。特に東京書籍は、具体的には、東九条マダンや、地球温暖化防止京都会議、ユニバーサルデザインに配慮して開設されたバス停の時刻表といったものも含まれている。」

その後の協議ですが、「事前に採択委員が勉強した中では、東京書籍、帝国、教育出版等にひかれていたが、様々な観点で代表調査員に質問をしたところ、自分の頭の中で整理ができた。授業のしやすさ、授業の仕方、資料の整理の仕方等を考え、東京書籍が優れているのではないかと考える。選挙年齢の引き下げ等もあり、主権者教育が注目されており、中学校の社会科学習では、この公民が直結する分野である。質問や意見があったが、今日的課題と結びながら、生徒が自主的に勉強することについて、配慮なされていることが見て取れるので、東京書籍がよいのでは。」という意見があり、社会科公民的分野については、東京書籍が選定されました。

[委員長]

協議会の選定は、東京書籍となっておりますが、公民的分野についてのご質問等はいかがでしょうか。

[委員]

東京書籍を採択する方向で、一応結論は出ているのですが、この書籍が優れているところは、見開き2ページに子どもの関心を引き付ける写真・資料等がドンとあって、今日の社会科の授業の目標は何か、たとえば人権の所で言うと、「平等権」という一つのテーマで、今日の日本社会では、差別を解消して共生社会に向けてどのように取組ませていくのでしょうか、という課題がきちっと提示されています。何より優れているのは、一番最後に学習のまとめを設定されています。それぞれのまとめの説明を自分の言葉で説明しなければならない等、色々そういう風に高める工夫がなされています。

[委員長]

はい、ありがとうございます。1時間ごとに考えましょう、とか自分に振り返って考える姿勢が、東京書籍の中に有ったように思えます。他に意見等は有りませんか。



[教育長]	一応先ほどから社会については、人権について色々の観点から意見がありました、公民的にもその観点からみますと、東京書籍が11項目ぐらいで、帝国が6項目、自由社が4項目で、他社はもっと少ないです。そういう観点からも東京書籍が良いと思っています。
[委員長]	ありがとうございます。公民的分野について、東京書籍を採択したいと思いますが挙手をお願いします。
	《委員全員挙手する。》
	全員一致で東京書籍「新編・新しい社会公民」が採択されました。よろしく願います。
[事務局]	次に数学の採択をします。協議会の採択は、大日本図書「数学の世界」でございます。数学だけが、最初の質疑・協議で意見がまとまらず再度調査委員に再質問をして、再度協議をされたという流れで選定されました。今、報告しました再質問分、再協議分も含めて報告させていただきます。
	質疑の概要ですが、「学力低位層、数学の苦手な生徒への配慮という点で、この出版社が一番よいというのはどれか。」という質問に対して、「学力低位層になってくると、公式が書いてあり、単に説明が書いてあるだけでは学びにくい。少しノウハウ的な物があるとよいので、マニュアル的な物が掲載されているのは、数研出版、大日本図書である。」
	次に、「授業ではめあてを持って学習することが一番大切であるが、その点で特に配慮がされている出版社は。」という質問に対して、「1時間のめあてをきちんと明示しているのは、大日本図書である。最初に、この1時間で学習するのは何かということがきちんと明示されているのは、この会社だけである。生徒も分かりやすいし、教師も黒板に板書しなくても分るような形になっている。」
	「学力を定着させる工夫が、特に顕著だと思われる出版社は。」という質問に対して、「学力の定着については、最後の単元の終末に問題をやるのはどの出版社もある。節の終わりであったり、章の終わりであったりと細かなスパンで載せているのは、数研出版、東京書籍、日本文教出版、教育出版、大日本図書の5社である。」
	「習熟問題の配置、更に進んだ生徒への巻末の問題などが、どのように系列配置されているのか。各社の特徴は。」という質問に対して、「A問題、B問題が章末にあるパターンが、各出版社とも見られる。特徴的なものとして、大日本図書は、できる子が待たなくてもよいように、ちょっと難しいチャレンジ問題が本文の側注にある他、基本問題にもどろろという矢印もついている。」
	その後の協議ですが、「数学の場合、どの出版社もよく似たところで、これが飛び抜けてというのがなかったのではないかなと思うが、若い教師が増えてきた中で、教科書が使いこなせるベテランの教師と、そこまでいかない教師となってきたときに、若い教師がこなせるというのは、一つ選定する点かと思う。山城の課題に即していることから、これまでの山城の数学を変える視点からも、大日本図書がよい。めあてをもった学習への配慮だとか、定着させる工夫だとか、あるいは発展的な学習につなげていくような仕掛けの問題で、具体的な会社名としては大日本図書でよい。」という協議意見があり、数学科については、大日本図書が選定されました。
[委員長]	はい、ありがとうございました。協議会で一度協議されて、再度協議したとの説明でしたが、今の説明について、何か質問及び意見は有りますか。
[委員]	事務局の方から、選定にあたって5点挙げられました。学力向上の点、2番目に家庭学習、興味、関心を高める点、3番目に若手教諭の育成、特に使い易い教科書という観点、4番目に公平性、5番目に教科書選定のご意見が有りました。特に数学については、最初の3つの観点、学力向上、家庭学習、若手教諭の育成、興味関心を中心であると思います。私も専門じゃないので感想的になりますが、この点で八幡市の子どもたちの実態に合っているのかということが、私にとっては一番大きいところでありまして。2番目



に様々な子ども、個に対応できているか。多様な実態の中に、子どもたちがいるからです。3番目には、興味関心を持って授業に参加できるか。4番目は、教師にとって教え易いか。特に若手教員にとって、熟練した教師と同じように、子どもたちに高い質の教育を提供できるのかどうか。それから、小学校・中学校・高等学校との接続関係が配慮されているのか、というようところに私は個人的に非常に注目して、この教科書を見させていただいたつもりであります。

先ほど、再質問があったという説明もありましたけれども、どの教科書もよくできているので、どれに目が行くかによって判断が大きく変わってくると思います。あるいは、優劣つけがたいところも多いと思います。このような状況の中で私が最終的に、この場でどのような立場をとるかと考えてみますと、実際にこれを実践される方々の意見を踏まえて、特に矛盾が無ければ、どの教科書もよしとしようと思っています。そのような観点を踏まえながら、説明を聞かせていただきました。説明の内容では、学習の目当てが非常にきちっとしていること、低学力の子についても授業でどう対応するのかについて、丁寧な説明がなされていることなど、この点で大日本図書が優れているということでした。実際、学力面で丁寧な説明がなされているのか、という配慮については、特に大日本図書は、空欄を埋める問題が非常に多く、細かなスパンで、基本問題の定着を図られているように思われます。

また、様々なレベルの子どもたちが活用する力等についても活動的なものが設定されていますので、そのような面からすると、大日本図書がいけない理由が私には見当たらないので、よいのではないかと思います。

[委員長]

ありがとうございます。他、何かありませんか。

それでは、数学について大日本図書「数学の世界」を採択したいと思いますが、挙手をお願いします。

《委員全員挙手する。》

全員一致で大日本図書「数学の世界」を採択する事とします。

次に理科の採択をします。協議会の採択は、啓林館「未来へひろがるサイエンス」でございます。協議会で選ばれた理由についてよろしくをお願いします。

[事務局]

理科の質疑概要ですが、「理科というのは非常に分かりにくく、抽象的な部分についても、より理解しやすいような形でもっていつている教科書や特徴を教えてください。」という質問に対して、「抽象的で目に見えない部分は、生徒に図示していくということが中心になってくるが、それについては、各社とも工夫して様々なものを出している。大日本図書、教育出版社、啓林館は、割と図を使っての説明を丁寧にしている印象がある。特に図示の仕方でも、たとえば原子の時には、原子核とその周りの電子の核を何段階と細かく書いてある図と、周期律表がかぶせてあるなど、これらの工夫は、この3社が優れている。特に啓林館が、使いやすい形をとっている。」

次に、「科学的思考力や課題設定能力等の育成に、どの教科書がいちばん工夫されて、特色があるのか。」という質問に対して、「実験・観察の方法が一つしか教科書の中で提示されないと、結果が正しい答えが出ない場合、成功・失敗という生徒の声が非常にあり、1対1対応の知識になってしまい、思考力・判断力につながりにくいという弊害がある。啓林館の場合は実験・観察の方法を複数提示してどちらをとるかというのは、先に述べたような弊害を回避する一つの提案だということで、優れたものと考えている。ただ、自分たちで考えてみようという提起はされているので、その方向で各出版社とも考えてきており、その中で啓林館は一步抜き進んでいるという感じがする。」

次に、「授業の中で様々な体験を通して、達成感とか、生徒自身が達成感を実感するような仕掛けをしている教科書はどれか。また、授業だけでなく、家庭等で自主的に学習や観察に取り組みやすい配慮がなされているものはどれか。」という質問に対して、「実験・観察の中で、自分で見つけ出したことを達成感という形で持つことが、理科好きの



子にとって大きいポイントである。理科の座学は嫌いだけど、実験だけは好きという子は非常に多い。登下校途中のフィールドとか、学校内のフィールドの植物や動物に興味を向けて、自分で学んでいく態度をさらに育てていきたいが、そういう意味では、夏休み等に自由研究を課している学校が多く、それに対応するという点では、東京書籍、大日本図書が、巻末に自由研究のテーマを配置している。探求的な授業で取り扱ったものに対して、更に深めてみようというのは、各社とも巻末に書いている。」「啓林館は、別冊で『マイノート』というのがあるが、特徴は何か。」という質問に対して、「『マイノート』については、現在使用している教科書にも、巻末問題的なものがついているが、今回のものについては、ブルーの透明シートが付いていて、そのマイノートや各章末に、重要語句をまとめており、そのブルーのシートで隠すと何が書いてあるかわからなくなり、順番にずらしながら、重要語句の暗記チェックができるような細かな工夫がされている。授業中にノートを忘れても、マイノートに書き込んでいくと、ある程度この実験について分かる工夫である。単に問題集であるとか各章末問題というのではなく、授業から連続的に使える学習教材に仕上がっている。」という様な答えがされました。

協議ですが、「理科において、科学的な思考を伸ばすことが非常に必要であり、同時に学力課題の大きい生徒も増えてくる時期でもあるので、基本的な部分をしっかり押さえていくことも必要となる。この2つの面に対応できるのが啓林館ではないかという、調査員からの発言もあったので、啓林館がよいのではと考える。また、実験・観察の方法を一つに絞るのではなく、複数の選択肢も提示しているというのも非常に面白い試みだと思うので、啓林館が一番適当ではないか。」という意見があり、理科については、啓林館が選定されました。

[委員長] はい、ありがとうございました。詳しい説明を頂きました。

『マイノート』については、前回の改定の時に出てきた様に思います。それを活用されて、そういう習慣が各山城地域の生徒の中にあるのじゃないか、という風に私も認識しております。写真なんですけど、教材の写真が毎回子どもが引き付けられるような感じでしたが。

[委員] 委員長の質問に対して、啓林館の写真はリアルで、おっと引き込まれる写真が非常に多く、非常に興味する写真になっている。それに観察の写真が非常に多く、『マイノート』も充実してきている。小学校も啓林館を採択しているので、その辺の繋がりを考慮して啓林館が良いと思います。

[委員長] 他にございませんか。無いようなので、本委員会として啓林館の「未来へひろがるサイエンス」を採択するのに賛成の人、挙手をお願いします。

《委員全員挙手する。》

理科につきましては、全員一致で啓林館の「未来へひろがるサイエンス」を採択する事とします。

続いて音楽の一般と器楽合奏でよろしくをお願いします。

[事務局] 音楽および器楽質疑の概要ですが、「音楽では、歌唱、器楽、創作、観賞等、様々な音楽活動を通して、生徒が基礎的・基本的な力を楽しく、そして主体的に確かに順序を追って身につけていくことができるように、特に工夫しているのはどれか。」という質問に対して、「基礎的・基本的な内容定着を図るための手立てとして、教育芸術社が優れている。各教材には、学習目標を明確に表示し、学習活動や吹き出しによる問いかけ、『ここが分かればGrade Up!』というコラム欄を設けており、共通事項との関連を図りながら、具体的な観点に基づいた学習ができるように工夫されている。」

「我が国の伝統音楽の良さを味わうことができるような工夫や、我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導について、よりきめ細かな配慮がしてあるのはどれか。」という質問に対して、「教育芸術社が日本の伝統音楽の楽器編成、そして演奏方法や演奏形態、郷土の音楽の記載に配慮をされている。また、歴史的な背景、唱歌、謡、能、雅楽等楽器の特



性や奏法にとどめず、楽器の持つ特質や四声に関する内容を含めた記載がされている。教育出版社では、1年生にソーラン節においては、西洋の音階4分の2拍子で、符点音符で記載をされている。通常ソーラン節と呼ばれるものは、口伝えでこういった4分の2拍子の符点で記載されるということは、非常に難しいことであると認識をしている。生徒が民謡を4分の2拍子の譜面を見て、これがソーラン節だという認識を深く印象付けるのではないかなと感じている。編曲者ということで記載されているが、民謡として西洋の音階で4分の2拍子で記載するということについては、少し疑問が残る。」

その後の協議では、特に意見はなく、音楽・器楽については、教育芸術社が選定されました。

[委員長]

はい、ありがとうございました。今の説明で質問・意見などはありますか。

[委員]

一般の方で、教育芸術社で『ここが分かればGrade Up!』とかcreateの項目があり、生徒がもっと勉強したいな、とか関心を持ったりと追求できる教科書の作りになっており、自分で自学出来る工夫があると思いました。

器楽の方は、中学生になってアルトリコーダーに代わっていく事に配慮して、アルトリコーダーについて詳しく説明が有るのが教育芸術社だと思います。アンサンブルの曲が十数点あったと思うのですが、教育芸術社の方は、ピアノと楽器とカリズムだけのアンサンブルとか、色々なタイプのアンサンブルの曲があって、生徒同士が演奏するのに楽しく演奏できると思います。ソーラン節が五線で書かれているのがありますが、民謡なので節が音の高低と節を示していたのが教育芸術社だったので、教育芸術社が良いと思いました。

[委員長]

はい、ありがとうございました。他にございませんか。

それでは、音楽一般及び器楽合奏については、教育芸術社「中学生の音楽」「中学生の器楽」を本委員会として採択するのに賛成の人、挙手をお願いします。

《委員全員挙手する。》

音楽につきましては、教育芸術社「中学生の音楽」「中学生の器楽」を本委員会として採択するものといたします。

続きまして、美術をお願いします。

[事務局]

美術の質疑内容ですが、「小中連携という視点で、小中のつながりが整理できているところはるか。」という質問に対して、「小中連携については、開隆堂に、『小学生の皆さんに』というメッセージカードを付けた小学生が、中学生の作品を鑑賞している写真がある。」

「開隆堂と光村図書については、中学の3年分を2冊で構成し、日本文教出版が1年と2・3年上及び下の3冊。こういう形をとっているというのは大きな特徴があり、日本文教出版については、サイズも変形A4版である。この違いは、何かそれなりの大きな特徴があるのか。」という質問に対して、「日本文教出版は、以前から1年と2・3年は上下に分かれる形である。他の2社は2冊でコンパクトにされている。時間配分的に言うと1年は年間45時間、2・3年はそれぞれ35時間。1年間の時間数が少ない。扱う部分でいうと1年が量的には多いのが1つあると思う。2・3年が1つか2つにわかれるかの違いは、日本文教出版は、1年生は『美術との出会い』、2・3年の上は『深まり』、2・3年下では、『探求をしよう』とコンセプトとして表して、追及できるような流れを作ろうという意図があると思われる。」

次に、「鑑賞への関心を引く取組は3社ともされているが、より鑑賞への意欲を高めるといった取組をされているのは、どちらの教科書か。日本の伝統というのも説明されたが、他社もそういったものが無かったのかどうか。」という質問に対して、「日本の伝統については、3社とも中身的には網羅されている。たとえば日本の伝統色で、岩絵の具の伝統色は3社とも入っている。更に着物の文様や和菓子の形等、入り込んでいる。昔に比べたら日本の伝統に対する関心が増えられたのではないかなと思う。一



番日本の伝統にポイントを置いた教科書かというと特に言い切れないが、浮世絵で和紙を取り込んだのは、今までにない画期的な中身を持ち込んでいる。それから、作品の大きさがワイドになった。京都市内なら、美術館へ行けるが、京都の北部や山城の南側の方は、保護者がその関心が強くなければ、美術館でなかなか観賞する機会が持てないと思う。その辺を最近教科書はしっかり作品の醍醐味を写真で大きく見せて、生徒に関心と呼び起こすような画面の斬新な部分を盛り込んできたと思う。」

協議の中身については、「開隆堂と日本文教出版が、制作の楽しさや生徒による制作の一場面を載せることによって、親しみやすさが見える。日本文教出版は、発達段階に応じた多岐にわたる題材を取り上げていて、発展性を持たせていく。また、身近な題材を取り上げて考え方や発想を深めながら、より制作意欲を高めていくという工夫が他社よりもあると思うので、日本文教出版でよいのでは。」という意見があり、美術については、日本文教出版について、選定されました。

以上でございます。

[委員長]

はい、ありがとうございます。今の説明に何か有りませんか。

中学生の美術は、高校の芸術科への道筋をつけてあげるものが、必要だと思います。そういうものが発見できる教科書が欲しいという観点で見せていただくと、生徒に美術の感動を持たせられる教科書は、どれかなと見せていただきました。そういう点において、光村と日文は、よく整理されていると思いました。ユニークなのは、開隆堂ですが少し高度だと思えます。日文は3冊構成で、1年の教科書は小学校の延長から始まり、3年生の下は高校の芸術科への道筋をつけられる配慮がなされておりました。それで日本文教出版が良いと思いました。他、何か有りますか。

それでは、美術については、日本文教出版社「美術」を本委員会として採択するのに賛成の人、挙手をお願いします。

《委員全員挙手する。》

美術につきましては、日本文教出版社・「美術」を本委員会として採択するものいたします。

続いて、保健体育について説明頂けますか。

[事務局]

保健体育の質疑概要ですが、「東京書籍は、保健編と体育編が学年ごとに組み合わせられていることで3年間の見通しがあり、大日本図書と大修館は、体育編を先に全部、学研は保健編を全部という構成になっているが、若い世代の教員が多くなっている状況で、教科的な指導について構成として、若い教員が教えやすいものはどれか。」という質問に対して、「教える側も教えられる側も、1年間の流れが分かる方が先の見通しが立てやすいと思うので、やはり1年生の分野、2年生の分野、3年生の分野と年度を追って、記載されている方が学習しやすいと考えている。東京書籍は、1年生の保健分野、1年生の体育分野、2年生の保健分野、体育分野、3年生の保健分野、体育分野。そのほかの教科書は保健分野ひとまとめ、体育分野ひとまとめなので、どこからどこまでが1年生という明確な区切りはない。」

「家庭で学習できるような配慮の点で、家庭でインターネットを通して、保護者も共に学習するという点もあると考えるが、その点で優れているのは。」という質問に対して、「家庭学習については、東京書籍は裏に保護者の皆様へという文章が一番上に載せられており、家庭での学習の協力を呼びかけているというところが特記すべき点である。インターネットも普及しているので、家庭で興味のあるところを各自で学習がしやすいようにもしている。また、身近な問題の提起をしながらインターネットで調べることなく、自分で考えるように提起をしている教科書もある。これらは、主に東京書籍になる。」

保健についてですが、「保健に関わる現代的な課題や安全確保について、特徴的なものは。」という質問に対して、「東京書籍は、防災教育についての記載が多く見られる。また、現代的な課題であるいじめや摂食障害、鬱に関する記載もある。体育分野の資料に



は、心もバリアフリー化という、いわゆる人権教育に触れた中身も記載されている。」

協議ですが、「東京書籍の保健の教科書は、1年ずつ積み上げていく形であり、教育現場の基本で、特に若い先生方にとっては、きちっと筋道立てて、段階を踏んでいるということが一番扱いやすい。保健の教科書をご覧になった方の意見で、例えば性に関するのあまりにもあっさりしすぎているとか、学校よりも家の方がとの意見もあったが、インターネットを通じて親子ともども学習できる機会も多々あるので、より有効に生かしている。」「東京書籍の教科書は、かなりカラフルだが、色弱とか色覚に障害を持っている生徒への配慮をしている。また、今年の6月から新しく規制が法律化された自転車についても、正しい乗り方を10種類ぐらいの絵で示してある。こういうのは、現場では大変扱いやすい。他の教科書も見たが、ここまできめ細かく整えている教科書は珍しい。」
「東京書籍が異性の尊重をきちんとうたっている。多感なこの時期に大事なことと思うので、東京書籍に賛成である。」という意見があり、保健体育科については、東京書籍が選定されました。

[委員長]

はい、ありがとうございました。今の事務局の説明に、何か質問はございませんか。

[委員]

決定的な違いは、編集の違いということで、学年ごとに組み合わせられている考え方が、生徒にとっては分かりやすく、教師にとっては教え易くなっていると思います。そういうことから、駄目だというところが見つからないように思います。

[委員長]

それでは、保健体育について、東京書籍「新編・保健体育」を本委員会として採択するのに賛成の人、挙手をお願いします。

《委員全員挙手する。》

保健体育につきましては、東京書籍「新編・保健体育」を本委員会として採択するものといたします。

次に技術家庭について、お願いします。

[事務局]

それでは、まず技術分野の質疑ですが、「情報に関して、情報モラルの問題をきちんとおさねなければならないが、開隆堂の方は『話し合ってみよう』とか、情報分野で特に『話し合ってみよう』の設定が多いように思う。この点の調査員としての考えを聞きたい。」という質問に対して、「情報モラルに関しては、昨今大切にされているところである。情報モラルに関しては、どの教科書もマークなどを付け、情報という分野だけでなく、他の領域でも、扱っている。開隆堂の『話し合ってみよう』で、情報モラルについて、自分の考えをきちんと持てる工夫がある。」

「技術科は知識だけではなく、のこぎりの使い方、金槌の使い方等の技能がある。男女共修になって久しいと思うが、男女含めて全員が、技能を身につけられるよう基礎・基本を大事にしなければならないし、同時に実習のときには、安全への配慮等も大切な視点である。それらについてきちんと配慮された教科書はどれか。」という質問に対して、「基礎的な技術技能については、どう生活に生かしていくかが、大切である。多くの情報がある中で、どの技術をどういう風に生活に生かしていくのかをしっかりと選択をすることや、特に基本的な技能を自分の生活の中で、男子も女子もきちんと生かしていけるようなことに関して、生活に密着した基礎的な技術を身につけることが、中学生では非常に大切になる。この点で、開隆堂がポイントを絞って分かりやすく、きちんとまとめられている。安全面については、どの教科書も安全なマークを付けたり、注意というマークを付けて実際に配慮をされているが、東京書籍や開隆堂は、特にページを設けて、最初のガイダンスのところで安全面について扱っている。」

「先ほどの説明で、『話し合ってみよう』があるのは開隆堂だけで、他の出版社は入れてないのか。」という質問に対して、「よく似たような『考えてみよう』という項目はどの教科書にもあるが、『話し合ってみよう』と具体的に示しているのは、開隆堂だけである。」

その後の協議ですが、「総合的に様々な観点で見た時に、開隆堂の教科書が優れている



	<p>と判断している。小さなことかもしれないが、中学校の教科書が分厚く重くなる中で、この開隆堂の技術の教科書だけ、減量に工夫してある。このサイズで、紙を軽くしてある。生徒のことを考えた時に、良心的な配慮がされていると付け足し、それも含めて開隆堂を推薦する。」という意見があり、技術科については、開隆堂が選定されました。</p>
[委員長]	<p>ありがとうございました。技術分野と家庭分野を分けて採択したいと思います。</p>
[委員]	<p>今、技術分野について説明いただきましたが、何か質問・意見等は、ございませんか。補足ですが、説明があった通りで、一つこの開隆堂の教科書の良い点、今回の特徴かなと思うのですが、最後にですね。3年間学習した後、技術の学習の最後のまとめの段階で、『技術分野の出口』というタイトルのまとめのページがありまして、そこで、これまでの人類の歴史の中で技術の進歩は、生活を豊かにさせる大きなことなんですけれど、これまでの技術の進歩を振り返って、中学生なりに、これからの技術はどういう風にあつたらいいのか、これからの在り方を考えさせられる。非常に大人にとっても難しい課題ですけども、その辺のまとめの章が最後にあるんですね。これは、すばらしい設定だと思います。後はですね、色々基礎基本が本当に分かり易く、丁寧に説明の写真を交えて、他の教科書と比べて特にその辺が丁寧にされているなどと思い、私も開隆堂の選定に賛成です。</p>
[委員長]	<p>それでは、技術・家庭の技術分野について、開隆堂「技術・家庭技術分野」を本委員会として採択するのに賛成の人、挙手をお願いします。</p> <p>《委員全員挙手する。》</p>
	<p>技術・家庭の技術分野について、開隆堂「技術家庭・技術分野」を本委員会として採択するものといたします。</p>
	<p>次に、家庭分野についてお願いします。</p>
[事務局]	<p>家庭科の質疑概要ですが、「情報化、少子高齢化が進む中で、中学生には家庭生活の在り方そのものに問題を生じさせることが多いわけで、この家庭科の時間に初めて、学ぶようなことも多いかと思う。そういった点で、基礎的・基本的な内容の定着に工夫しているのはどの教科書か。」という質問に対して、「基礎・基本の定着については、実物大も含めて写真や絵を取り入れて、それぞれにうまく説明している。中でも開隆堂については基礎技能の視覚化として、写真を他社よりも多く入れており、基礎縫いや肉の熟の変化等が、写真によって分かりやすく示されている。他社も同じような内容で示されているが、それが絵であったりして、比較が分かりづらい。教えているものとしては、ここがほしいというポイントが写真で出ているので、わざわざ資料を用意しなくてよく、使いやすい。更に、振り返りや学習のまとめで最終定着のチェックをするが、開隆堂は、他社とは違って、小单元ごとに振り返りをして、更に最後の「学習のまとめ」と2回確認できるようになっている。」</p>
	<p>「家庭との連携や生徒の自主学習への対応が、よりなされているのはどの教科書か。」という質問に対して、「家庭との連携は、教科書を見て自宅で体験、実践できる参考実習例を各出版社とも載せている。家庭生活、生活の課題・実践として、教科書で学習した内容をもう一度家庭で振り返るということを各出版社設定している。その課題例は、開隆堂が非常に多く、選択肢の幅が広がっている。」</p>
	<p>「採択基準の1番の学習指導要領に示す目標達成について、衣食住に係る和文化をより豊かに示した編集方法をとっている出版社は、どれか。」という質問に対して、「それぞれ衣食住の日本の伝統文化については各社とも扱っている。開隆堂は、日本の伝統文化だけの理解にとどまらずに、グローバル化の視点で取りいれているのが、他社とは異なる点である。また、開隆堂は食文化で和食というもの取り上げており、和食から京料理等に広げることによって、京都の食文化について更に深めることができる。この点について、先ほどのグローバル化、京都の食文化については、『山城の教育』にある、地域に誇りを持つ子どもの育成にも非常にマッチして扱いやすい。」</p>



「食育の重要性が叫ばれている中で、食物アレルギーの取り扱いが具体的に出ているところはあるのか。」という質問に対して、「食物アレルギーについても、全社とも扱っている。現在使われている教科書よりも、更に全社とも詳しく扱ってきている。特定原材料だけにとどまらず、示さなければならないものは、加工食品の表示例のところで詳しく分かるようにしてある。また、調理実習の際に、中学生なので、自分で自分のアレルギーについて理解し、実習課題に即して、選択していけるような配慮もある。」

協議ですが、「京都の伝統文化や食物アレルギーの対応も含めて開隆堂がよいのではないか。実践で使用できる内容の多い点で、開隆堂の教科書がよい。」という意見があり、家庭科については、開隆堂が選定されました。

[委員長]

ありがとうございました。今の事務局の説明について、何かご質問はございませんか。

[委員]

先ほども仰ったんですが、どの出版社も全部、日本の食文化という中で、日本各地の郷土料理を取り上げられていたのですが、京料理を扱っていたのは開隆堂だけだったので、京料理というのが、生徒の地元への関心や興味が更に強まってくるのじゃないのかな、という風に思いました。

主婦の視点から調理実習を重点的に見ていたのですが、調理方法のほぼ全工程が、写真付きで丁寧に書かれており、恐らく普段調理をしない中学生でも、この教科書を見て割と理解しやすいんじゃないのかなと感じました。出来上がりの料理の写真が、開隆堂が一番大きくて、綺麗で美味しそうに見えたので、生徒がこれを見ても自分でも作ってみたい、と思ってもらえるような写真になっていたのも、色々な興味を持ってもらえる開隆堂が良いと思います。

[委員長]

はい、ありがとうございます。他にございませんか。

無いようなので、技術・家庭の家庭分野について、開隆堂「技術家庭・家庭分野」を本委員会として採択するのに賛成の人、挙手をお願いします。

《委員全員挙手する。》

技術・家庭の家庭分野について、開隆堂「技術家庭・家庭分野」を本委員会として採択するものといたします。

続きまして、英語についてお願いします。

[事務局]

英語の質疑概要ですが、「文法事項を学習していく上で、生徒と教師の負担とか、労力とか、学習について何か気になる場所があればお聞きしたい。たとえば東京書籍には、プレゼンテーションというのがあるが、そこに持っていくまでに、もっと日常的な場面での英語の表現というのは、各教科書工夫されていると思うが、より使いやすい教科書があれば教えてほしい。」という質問に対して、「文法事項に関しては、3年間分の文法配列を確認した。各出版社とも2年生に重点があると思う。開隆堂、教育出版、三省堂、光村図書に関しては、2年生の終わりに受動態、いわゆる受け身の文法の配列がある。残りの東京書籍と学校図書に関しては3年生のはじめに受け身が配列されている。受け身に関しては、過去分詞を説明しなければならない。3年間のトータルバランスということで見たら、3年の過去分詞を使う部分として、現在完了もあるので、2年の終わりにわざわざ過去分詞を出して、受け身をというよりも、3年で受け身、現在完了と過去分詞を使う内容をそこで連続して指導した方が、生徒たちは学習しやすい。また、教える側の教師にとっても、過去分詞の説明や指導もしていくとなると、学年が変わった段階で、そこで受け身、現在完了と流れた方が3年間のバランスで考えるとよいと考える。」

「少しでも、きまりきった言い方であるとか日常会話で使える、学力的に課題の大きい生徒でも、それを覚えたら、簡単に使えるというスキットというか、パートが多いのは、東京書籍である。たとえば、電話の場面では1年から2年、3年と学年が上がるにつれて、少しずつグレードをあげて教科書に載っている。そのほかにも道案内や、食事に呼ばれてのマナーであるとか、日常シーンを載せている。」

「発展的な内容で長文が載っていると思うが、教科書ごとに難易度の差があるのかど



うか。」という質問に対して、「小学校から中学校、更に中学校から高校への接続のために、中学校から高校に上がるための発展的な内容で、読み物資料が載っている。たとえば、高校で習う内容に関しては、明記して区別している。そのために東京書籍、三省堂に関しては、それぞれ発展とか、高校で習うことには朱色の下線が付いている等の場面がある。あとは読み物資料としては、各社教科書のユニットが終わった後の付録に組み込まれている。読み物資料の中で、必須以外の単語が多く出てきているので、単語の注釈を付けている教科書と付けていない教科書と差異がある。教える側でなく、長文を読む生徒の立場にしたら、単語の注釈はある方が分かりやすい。」という回答がされました。

協議ですが、「目標に関しては、かなり各社とも努力をしているので、個人の印象として、そう大きく違わないけれど、各社それぞれ優れている点がある。まずは、生徒を中心にして、大きな文法事項の配列の問題がある。他教科との関連で人間の生き方というか、道徳教材との関連も大きく東京書籍は載っているし、発展学習は高校とのつながりを意識してあるので、総合的に細かなところで配慮されているので、東京書籍を推薦したい。」という意見があり、英語科については、東京書籍が選定されました。

[委員長]

英語について、具体的な説明をしていただきましたが、質問等がありますか。

[委員]

今、アクティブ・ラーニングというのが非常に注目されておりまして、それを各社がどのように取り組もうとしているかというところを興味があり、拝見しました。先ほど説明がありました通り、各出版社とも言語活動場面、総合的な活動、英語を利用した活動と言う様なものに非常に力を入れており、非常に素晴らしいと感じました。

その中で、東京書籍のプレゼンテーションというのは、学力の低い子にも対応できるように、モデルスキットが一つ明示されています。それをできない子でも自分のものにして、そして更に言語活動があるので、展開していくのは非常にクリアーであるという点が特徴です。他の言語活動は色々有るのですが、どれをどう組み合わせるかは、教師の裁量で力量差が非常に問われる様に思います。

それから、教え易さ、分かり易さ、数学の時と同様にターゲットが非常にハッキリしています。これは、学び易さでもあり教え易さでもあります。このような構成が東京書籍にあります。

それから、文法の指摘もありましたけれども、2年生にドリルが多く、バランスをとるために3年生に受動態を扱い、3年生で過去分詞を完了形も含めて整理して行うという観点があるのかと思いながら聞かせていただきました。

それから、内容についても東京書籍は、中身の意図が伝わってきます。言語材料の、特に単語レベルについても配慮して、単語の意味だけを載せるというよりも、動詞と目的語等の関連によって、言語というものは身につけていくので、ただ、単語だけを教えるのではなくて、コロケーション関係をこまめに分けて掲載しています。そのようなところに注目しました。

印象的なところを言いますと、東京書籍は、サイズがA Bサイズで行間も割合広くてゆったりとしており、落ち着いて読めるのと、どの課においてもバランスが非常に良いという印象です。学び易く教え易い、そして目的が明確である。また、小中高接続にも対応しているところから東京書籍でよいのではないのでしょうか。

[委員長]

はい、ありがとうございます。他にございますか。

無いようなので、英語について、東京書籍「NEW HORIZON」を本委員会として採択するのに賛成の人、挙手をお願いします。

《委員全員挙手する。》

英語について、東京書籍「NEW HORIZON」を本委員会として採択するものといいたします。

はい、ありがとうございます。他に何か意見等はありませんか。

[委員]

最後のまとめの中で仰るかもしれませんが、初めて教科書選定に携わらせてい



ただいて、非常に早くから時間をかけて、多くの方々がそれぞれの役割にしたがって細かく検討され、様々な視点から議論を戦わせて、選定がなされてきたと感じました。私も幾つか意見を申しましたけれども、教科書全体が私らの時代から比べると、素晴らしい教材が提供されているとつくづく思いました。しかも、時間をかけて八幡市の子どもたちにこれがよいと、山城地域の子どもたちにこれがよいという様な形で選んだ教科書であり、非常に素晴らしいものだと思います。でも、やはり教育は、“人”、“教師”だと思います。確かに学び易く、教え易い教材を選んだわけですが、それをいかに使うかというのは先生の指導力であり、そこに最終的には委ねていかなければいけないということで、ぜひ素晴らしい教材を選び、時間をかけて、思いを込めて選んだわけなので、是非、先生方には頑張ってくださいと思います。

[委員長]

はい、ありがとうございました。私も何回か選定に参加させていただいて、本当に、届いた教材を必死になって、7月・8月に読むわけなんですね。これが良いかなと思いつながりながら見させていただきました。委員の方々も、長時間本当にご苦労様でした。ありがとうございました。

これで全ての教科書の採択を終えましたので、議題を終了させていただきたいと思います。傍聴の方々、ご苦労様でした。

《傍聴人退室》

皆さん、長時間どうもご苦労さまでございました。今日の議題は、これだけでございます。延々と2時間かかりましたが、これも私たちの熱い思いだと思って聞いていただいたらありがたいと思います。

[教育長]

今日の議題の採択は、終わりましたけれども、山城地区の教科書の採択協議会が、議事録と報告書につきましては、規約上公開する事になっていきますので、公開につきましては、閲覧希望者に対して公開したいと考えています。

[委員長]

はい、了解しました。他に何かありますか。

[事務局]

7月の議事録の写しを配付させていただいております。また、市立各幼稚園、小・中学校平成27年度運動会・体育大会出席者（案）も配付しておりますので、変更等があれば連絡くだされば対応させていただきます。

[委員長]

それでは、以上をもちまして、8月の定例教育委員会を閉会させていただきます。



署	名	(委員長)	(調整者等)
		•	•
		(委員長職務代理者)	•
		•	
		(委員)	
		•	
		(委員)	
		•	
		(教育長)	
		•	